

# 総括・社外意見を受けて

## 社会性に関する分野

2012年度は東日本大震災の発災から2年目になり、変化した社会の期待に応えるべくCSR活動を展開してまいりました。安全・安心、健康・快適にお過ごしいただくといった住まいの基本的役割を充足しつつ、エネルギー不安の克服だけでなく、コミュニティの育成をコンセプトとした「スマートコモンシティ」の全国展開は、その代表例と考えます。

2013年度は「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス (ZEH)」の普及など本業を通じたCSR活動に引き続き注力いたします。これらの事業成果を生み出すのは従業員の力です。多様な従業員が働きやすい職場づくりを推進することが、企業が提供できる付加価値をより高めるとともに、少子高齢化など社会課題の解決につながるという信念のもと、中長期的な視野で「人材サステナビリティ」の取り組みを進めたいと考えております。

サプライチェーンマネジメントにおいては、従来、取引先様との共存共栄の関係構築に努めてきましたが、CSR調達という視点で対話を進め、社会へのインパクトを強めていきたいと思っております。

海外への積極的進出により、2015年1月期には国際事業が売上高全体の1割を占める予定です。海外でのCSRマネジメントレベルの向上も重要な課題と認識し、取り組みに注力する所存です。

社会貢献の分野では、「積水ハウスマッチングプログラム」の助成額が累計で1億円を突破いたしました。東日本大震災以降、従業員の寄付意識は確実に高まりましたが、マッチングプログラムの会員数はグループ全従業員数の1割強にすぎません。「相手の幸せを願い、その喜びを我が喜びとする」企業理念の根本哲学「人間愛」を具現化するべく、さらなる会員数の増大を図ります。

東日本大震災の復興支援においては一日も早い生活再建、事業再開に向け、増加する建設需要にグループの総力を挙げて応えてまいります。踊り場状態にあると言われる人道的支援にもNPOなど他セクターと連携し、継続する所存です。

そして本年も、もう一度原点に立ち返り、社員教育の徹底を図ることにより、CSR活動の一層のレベルアップを目指します。



取締役 兼 専務執行役員  
コーポレート・コミュニケーション部長  
平林 文明

## 環境に関する分野

住宅事業は、住宅を建てることだけでなく、お客様が住まわれてからのサポートが大切だと考えております。「200年住宅」と言われますが、これは200年の耐久性のある家を建てるということではなく、200年間メンテナンスサポートを継続していくというお客様との約束を意味するものだと思います。このためには積水ハウスが200年以上にわたり事業を継続する必要があり、それを実現するためには積水ハウスが世の中から必要とされる企業になることだと思います。このため当社はCSRに力を入れています。

CSRは、まず法律遵守は当たり前ですが、事業収益を上げて税金を払うこと、次に社会貢献です。当社においては、社会のさまざまな問題を解決する住宅をたくさん提供すること自体が社会貢献です。より多くのお客様に支持されるためには、お客様の立場に立って考え、受け入れていただける住まいを提供する必要があります。社外委員、第三者意見共に高く評価していただいている「グリーンファースト」の推進がこれにあたります。

第三者意見にあるように、長く住んでいただくためには保証や買取再生事業など総合的な仕組みが必要で、当社は非常に充実しております。また、生物多様性や資源循環の取り組みも他社にない充実したものです。しかし、これらについてまだまだ発信不足で十分に認知されていないのが実情です。

今後、より一層CSRに力を入れて、快適で環境に良い商品を提供していくことはもちろん、「顧客エンゲージメント」を強化するために、当社の取り組みを積極的に社会に知っていただく機会づくりに努めてまいります。



執行役員  
環境推進部長 兼 温暖化防止研究所長  
石田 建一